



文化看護学会

文化看護学会 第12回学術集会 プロシーディング

Proceedings of the 12th Annual Meeting of
the Society of Cultural Nursing Studies

テーマ Theme

アジア文化の視点から ケア/ケアリングを科学する

Studies of Care/caring
from the Perspectives
of Asian Culture

会期
Date

2020年7月12日(日) 10:00~16:30

July 12 (Sunday), 2020, from 10:00 to 16:30

会場
Venue

神戸大学バーチャル会場

Kobe University Virtual Meeting Spot

会長
Chair

法橋 尚宏 (神戸大学大学院保健学研究科)

Naohiro Hohashi, PhD, RN, PHN, FAAN
Graduate School of Health Sciences,
Kobe University, Japan



法橋研究室
Hohashi Lab.



トランス文化
家族看護学
Transcultural Family Health Care Nursing



文化看護学会

文化看護学会 第12回学術集会 プロシーディング

Proceedings of the 12th Annual Meeting of
the Society of Cultural Nursing Studies

テーマ
Thema

アジア文化の視点から ケア/ケアリングを科学する Studies of Care/caring from the Perspectives of Asian Culture

会期
Date 2020年7月12日(日) 10:00~16:30
July 12 (Sunday), 2020, from 10:00 to 16:30

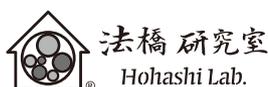
会場
Venue 神戸大学バーチャル会場
Kobe University Virtual Meeting Spot

会長
Chair 法橋 尚宏 (神戸大学大学院保健学研究科)
Naohiro Hohashi, PhD, RN, PHN, FAAN
Graduate School of Health Sciences, Kobe University, Japan

文化看護学会第12回学術集会事務局
Congress Secretariat of SCNS12

神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野
〒654-0142 兵庫県神戸市須磨区友が丘7-10-2
事務局長 堀口 範奈 副事務局長 太田 浩子
E-mail: scns12@transculturalnursing.jp

Division of Family Health Care Nursing,
Graduate School of Health Sciences, Kobe University
General Secretary, Hanna Horiguchi
Assistant General Secretary, Hiroko Ohta
7-10-2 Tomogaoka, Suma-ku, Kobe, Hyogo 654-0142, Japan
E-mail: scns12@transculturalnursing.jp



法橋 研究室
Hohashi Lab.



トランス文化
家族看護学
Transcultural Family Health Care Nursing

文化看護学会第12回学術集会 開催の挨拶

アジア文化の視点からケア／ケアリングを科学する

新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々、ご遺族の方々にお悔み申し上げるとともに、被患されている方々に心よりお見舞い申し上げます。また、世界中のひとびとの生命と健康と生活などを守るために、さまざまな場面で支援に取り組んでおられる看護職者ならびに関係者の方々に敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

このたび、文化看護学会第12回学術集会の会長を拝命し、2020年7月12日(日)に神戸大学バーチャル会場において学術集会を開催させていただきます。日本の文化看護学研究成果を発信する場を主催できますことは、私にとって誠に光栄に存じます。

本学術集会は、実に多くのご支援を受けて、京都で開催するために慎重に準備を進めて参りました。しかし、2020年5月時点の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、ご参加の皆様の看護活動と学術活動を支援するために、従来の集合型開催を中止し、バーチャル型開催とすることにいたしました。学術交流の機会を提供することは、私たち主催者の重要な役割のひとつであると考えております。

具体的な開催方法は、同期型(同時双方向型)と非同期型(オンデマンド型)でのハイブリッド開催とします。同期型は予定どおりの2020年7月12日(日)に開催いたします。非同期型(オンデマンド型)は、2020年7月12日(日)から2020年8月1日(土)に開催いたします。このために、急遽、神戸大学バーチャル会場(<https://virtualconference.jp/>)を設営いたしました。私は、20年以上前、日本コンピュータサイエンス学会の理事長を務めていたときに、学術集会をバーチャル型開催とした経験があります。今、インターネットの普及と高速化により、地球がかなり“小さく”なっていると感じています。今後はインターネット配信がますます普及することが予測され、新型コロナウイルス感染症収束後、バーチャル型開催は新しい学術集会の形になると考えられます。

本学術集会のテーマは、“アジア文化の視点からケア／ケアリングを科学する”といたしました。文化の種類は無数にあり、文化の区切りも国、地域、家族、個人など多岐にわたります。文化は、ひとの行為を支配するピリーフと価値観で構成されていますので(Hohashi, N. (2018). Family care/caring based on Family Belief Systems Theory. *Journal of Transcultural Nursing*, 29, 308)、最善のケア／ケアリングを提供するために文化看護学の智慧を働かさなければなりません。したがって、文化を考慮したケア／ケアリングは、あらゆる看護学の基盤をなすといえます。本学術集会では、グローバル化する

日本において、とくにアジア文化に焦点をあて、日本社会に貢献するという期待を込めております。

このテーマのもと、魅力的なプログラムを企画させていただきました。会員の皆様には、日々の成果をご報告いただき、会員相互の情報共有の場となることを願っております。新たな試みとして、一般演題ではベストポスター賞の表彰を行います。また、グローバル化にともない、発表言語は日本語のみならず、英語も可能とさせていただきました。抄録においては、倫理指針の遵守、利益相反開示を必須といたしました。そして、演題の採用判定基準などは、国際学会における考え方に準じました。

文化看護学の発展のためには、けっして文化看護学会だけで閉じてはいけません。学術集会の国際化にも力を注ぎ、歴史のある国際学会である Transcultural Nursing Society との連携を図りました。本学術集会と同じ会期で、Transcultural Nursing Society Conference in Japan 2020 を開催いたしますので、両学術集会に参加することによって世界的に著名な研究者とも身近に接することができます。

当初から節約を心がけ、無駄な出費を抑える努力をしてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本学術集会の収支の黒字化は困難な見通しです。関係各位に多大なご心配とご不便をおかけし、心よりお詫び申し上げます。ご参加の皆様の満足度を担保できるように、最善の準備を整えるように努めてまいりますので、ご理解、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。おもてなしの心で、多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

文化看護学会第12回学術集会

会長 **法橋 尚宏**

神戸大学大学院保健学研究科・教授



総合案内とバーチャル会場案内

General Guidance and Guidance to the Virtual Conference

1. 総合案内

- 総合案内は、神戸大学バーチャル会場 (<https://virtualconference.jp/>) から入場した後のトップページにあります。バーチャル会場は、神戸大学内で運営しますが、事前にプレス受付を済ませた取材を除き、リアルでの来場はお断りします。
- 第1バーチャル会場は Zoom ウェビナーにてライブ配信、第2バーチャル会場は Zoom ミーティングにてライブ配信、第3バーチャル会場はウェブサイトにてポスターを掲示します。
- 各種問い合わせは、事務局への電子メール (scns12@transculturalnursing.jp) でお願ひします。

2. バーチャル会場への入場

- 事前に参加登録され、参加費を入金済みの方にのみ、登録いただいた電子メールアドレス宛てに、バーチャル会場に入場するためのログイン ID とパスワードを2020年7月9日(木)に送信します。ログイン ID とパスワードの再発行はしません。なお、ログイン ID とパスワードは第三者に譲渡せず、管理を徹底してください。
- 事前に、Zoom (Zoom ビデオコミュニケーションズ) のウェブサイト (<https://zoom.us/>) からミーティング用 Zoom クライアントをダウンロードし、パソコンにインストールしておいてください。なお、<https://zoom.us/test> において、テストミーティングに参加してインターネット接続を確認できます。
- ウェブブラウザを使用し、神戸大学バーチャル会場 (<https://virtualconference.jp/>) にお越しください。ウェブブラウザは、Safari (アップル)、Mozilla Firefox (Mozilla Foundation)、Google Chrome (Google) をお薦めします。
- 2020年7月12日(日)に、ログイン ID とパスワードを使って、バーチャル会場に入場してください。第1バーチャル会場と第2バーチャル会場では、プログラムをクリックすると Zoom クライアントが起動しますので、各バーチャル会場に入室できます。第3バーチャル会場では、プログラムをクリックするとポスターが表示されます。
- 2020年7月12日(日)から2020年8月1日(土)の期間、同じログイン ID とパスワードでバーチャル会場に入場可能です。

3. プロシーディングと参加証

- プロシーディングは、バーチャル会場に入場後のトップページにおいて、PDF ファイルとして提供します。
- 冊子体の『文化看護学会第12回学術集会プロシーディング (Proceedings of the 12th Annual Meeting of The Society of Cultural Nursing Studies)』(ISBN 978-4-904684-06-1)は、2,000円(税別)で販売しています。購入希望は、事務局にお問い合わせください。
- 参加証 (Certificate of attendance) は、バーチャル会場に入場後のトップページにおいて、PDF ファイルとしてダウンロードできます。
- 領収証が必要な場合は、登録デスクへ電子メール (kntkobe0228@or.knt.co.jp) で問い合わせてください。

4. プログラムへの参加

- バーチャル会場に入場後、現れるプログラムを参照し、プログラムをクリックすると Zoom クライアントが起動しますので、各バーチャル会場に入室して聴講してください。
- プログラムに参加中は、発表者の音声トラブル発生を予防するために、音声はミュート（消音）に設定してください。
- 万一、発表に際してトラブルなどが生じた場合、事務局ではその責任を負いません。特に、提示するスライド内容や関連ファイルでの著作権、肖像権、個人情報などの取り扱いに十分注意してください。
- 発表に際し、事務局はコンピュータの操作、インターネット接続、映像・音声などのトラブルへの直接的な対応はできませんので、ご自身での解決をお願いします。

1. Overall Guidance

- To view the General Guidance, please go to the web site of the Kobe University Virtual Conference, (<https://virtualconference.jp/>), where you will see the top page. The virtual conference is operated at Kobe University, but with the exception of reception by members of the press beforehand for purposes of coverage, please refrain from making actual visits to the site.
- The First Virtual Conference Room will be streamed live via Zoom Webinar ; the Second Virtual Conference Room will be streamed live via Zoom Meeting ; and the Third Virtual Conference Room will display posters on the web site.
- If you have any questions regarding the above, please email the Secretariat (scns12@transculturalnursing.jp).

2. Admission into the virtual conferences

- Those who have completed registration and payment will receive a log-in ID and password that will enable them to enter the site. This will be mailed to them on July 9, 2020 (Thursday). The log-in ID and password cannot be re-issued. Please make careful efforts to protect your log-in ID and password and refrain from giving them to third parties.
- Prior to the conference, please go to the Zoom Video Communications web site (<https://zoom.us/>) and download the Zoom client for meetings and install it on your personal computer. It is suggested that you confirm that the software is operating by going to <https://zoom.us/test> and taking part in a test meeting.
- Utilizing your web browser software, log onto the Kobe University Virtual Conference (<https://virtualconference.jp/>). Recommended browsers include Safari (Apple), Mozilla Firefox (Mozilla Foundation) and Google Chrome (Google).
- On July 12, 2020 (Sunday), please use your log-in ID and password to enter the site. Clicking on the First or Second Virtual Conferences will load the Zoom client, enabling you to enter to the respective virtual conferences. By clicking on the program for the Third Virtual Conference, you will be able to view the posters.
- From July 12, 2020 (Sunday) to August 1, 2020 (Saturday), you will be able to access the virtual conferences using the same log-in ID and password.

3. Proceedings and Certificate of Attendance

- The proceedings will be provided in the form of a PDF file that is displayed on the top page following admission to the virtual conference.
- A printed booklet, "Proceedings of the 12th Annual Meeting of The Society of Cultural Nursing Studies," (ISBN 978-4-904684-06-1) will be sold for 2,000 Japanese yen (exclusive of 10% sales tax). Those wishing to order copies of the booklet should contact the Secretariat.
- A Certificate of Attendance in PDF form can be downloaded from the top page after entering the virtual conference site.
- If a receipt for payment of the attendance fee is required, please request it by sending an email to the registration desk (kntkobe0228@or.knt.co.jp).

4. Program attendance

- After entering the virtual conference site, refer to the program that appears. Click on the program will activate the Zoom client, enabling you to enter the virtual conference rooms to monitor the presentations.

- In order to avoid audio problems with the speaker, please set the volume to “MUTE.”
- The Secretariat cannot be held responsible for problems that occur during the conference. Presenters in particular are requested to take sufficient caution with the contents of their slide presentations with regard to copyright, image copyright, personal data and so on.
- When making presentations, the Secretariat will be unable to perform operations to fix problems concerning computer operation, internet connections, and audio/visual, so please be prepared to remedy these yourself.

各バーチャル会場における注意事項

Precautionary measures for the virtual conferences

1. Zoom クライアントで参加される前に、リアルな氏名を Zoom に入力して参加ください。発表者の場合、氏名の前に“発表者_”を付けてください。なお、Zoom ウェビナー / Zoom ミーティングに参加後、いつでもこの氏名を変更できます。
 2. 事務局が参加者の氏名を常時確認し、参加費の入金が確認できない場合は強制退室いたします。
 3. プログラムの IC レコーダなどによる録音、カメラ / ビデオカメラなどによる撮影 / 録画は、著作権の侵害になりますので禁止します。
 4. 同様に、パソコンのソフトウェアを利用したプログラムの録音、撮影、録画、ならびにファイルのダウンロードは、著作権の侵害になりますので禁止します。なお、各バーチャル会場にあるファイルは、容易にダウンロードできない仕様になっています。
1. Before taking part using the Zoom client, please enter your actual name into Zoom. If you are presenter, before your name, add “Presenter_.” Following use of Zoom Webinar and Zoom Meeting, you can change the name as you wish.
 2. The Secretariat will constantly confirm the names of participants, and if it is determined that the individual has not paid the attendance fee, that person will be blocked.
 3. Use of IC recorders or other audio recording devices, or image recording by means of cameras or video cameras is a violation of copyright and strictly prohibited.
 4. By the same token, recording, photographing, video recording or file downloads utilizing personal computer software is a violation of copyright and strictly prohibited. The files of the respective virtual conference rooms contain copy protection to discourage downloading.

ポスター発表のご案内

Introduction to the poster presentations (arguments utilizing paper posters)

下記のガイドラインにしたがって、ポスターのご準備をお願いします。

1. 発表は、示説 (ポスター) 形式のみです。
2. ポスター作成にあたり、以下の5点にご注意ください。
 - ポスター作成には、Microsoft PowerPoint (マイクロソフト)、Keynote (アップル) などを使用してください。
 - スライドのサイズをワイド画面に設定し、幅は33.87もしくは33.867 cm、高さは19.05 cmに指定してください。

- スライド枚数は、10枚以内で作成してください。
 - 1枚目のスライドに“演題名、発表者名(筆頭発表者に○印)、所属名、連絡先の電子メールアドレス”を明記してください。演題番号は不要です。連絡先の電子メールアドレスは、参加者からのコメントを受け取るために必須です。
 - 提出用ファイルとして、PDF ファイルを書き出してください。たとえば、スライド枚数が10枚の場合、10ページのPDF ファイルになります。
3. PDF ファイルは、2020年7月1日(水)までに、事務局(scns12@transculturalnursing.jp)宛てに電子メールに添付してお送りください。電子メールの件名は、“ご所属名_発表者氏名”としてください。PDF ファイルが5 MB 以上の場合は、オンラインストレージ GigaFile 便(<https://gigafile.nu/>)などを利用し、その URL をお送りください。
 4. 事務局が責任をもって、第3バーチャル会場にポスターを掲示します。自由に閲覧することになりますので、発表時間の設定はありません。
 5. ポスターは、非同期型(オンデマンド型)で2020年7月12日(日)から2020年8月1日(土)までの期間に掲示します。参加者から電子メールでコメントがあった場合は、個人的にご対応ください。
 6. 掲示が終了後、ウェブサイトを閉鎖し、データは事務局が責任をもって消去します。

You are requested to prepare your poster in accordance with the guidelines below.

1. Presentations will be limited solely to the poster format.
2. Please give attention to the following five points when producing your poster.
 - Please produce the poster utilizing Microsoft PowerPoint (Microsoft), Keynote (Apple) or other familiar software programs.
 - Please set the size of the slides for a wide screen, with a width of 33.86 or 33.867 cm and a height of 19.05 cm.
 - Please limit the number of slides to 10 or fewer.
 - On the first slide, please clearly indicate the title of the presentation, the name or names of the presenters (marking the first presenter with a circle), affiliated institution and contact email address. The inclusion of email contact is necessary in order to receive comments from participants.
 - Please produce the presentation files in PDF format. For example, if the number of slides is 10, then the file will become a PDF file 10 pages in length.
3. PDF files should be submitted as email attachments to the Conference Secretariat (scns12@transculturalnursing.jp) by July 1 (Wednesday), 2020. On the mail subject line, please write in, as appropriate, “Organization/institution_presenter name.” If the PDF file is larger than 5 MB, please send it to the above URL via online storage GigaFile protocol (<https://gigafile.nu/>).
4. The Secretariat will be responsible for undertaking display of posters at the Third Virtual Conference Room. All participants will be able to view it freely, so the presentation time is not fixed.
5. Posters (in on-demand format) will be displayed during the period from July 12 (Sunday) to August 1 (Saturday), 2020. If you receive comments from participants via email, please reply personally.
6. After the end of the presentations, the web site will be closed, and the conference Secretariat will take responsibility for erasing all data.

ベストポスター賞の授与

Presentation of Best Poster Award

1. 演題査読委員会の審査にもとづき、演題の中から優秀なものを会長が選出し、ベストポスター賞として2020年8月1日(土)に学術集会のウェブサイトで表彰します。
 2. 後日、賞状を受賞者に郵送します。
1. In accordance with judging by the Presentation Review Committee, the most outstanding presentation (s) will be selected by the chairperson, and awarded the Best Poster Award, which will appear on the conference web site on August 1, 2020 (Saturday).
 2. The award recipient (s) will be sent a certificate of award via post.

基調講演／鼎談／特別講演のご案内

Guide to the Keynote address/ Three-way discussion/ and Special lecture

下記のガイドラインにしたがって、基調講演／鼎談／特別講演にご登壇ください。

スライドの準備

1. スライド作成には、Microsoft PowerPoint(マイクロソフト)、Keynote(アップル)などを使用してください。
2. スライドのサイズをワイド画面に設定し、幅は33.87もしくは33.867 cm、高さは19.05 cmに指定してください。なお、スライドのトランジション(画面遷移)は設定しないなど、Zoomを使用する際のITリテラシーを備えてください。また、モニタ(ディスプレイ)1台で参加する場合、Microsoft PowerPointの発表者ツールを使用しないでください(参加者にメモが見えてしまいます)。

Zoom ウェビナー動作確認

3. 2020年7月11日(土)の13:00から15:00を動作確認の時間とします。Zoom ウェビナーの使用に不安のある発表者は、この時間帯に動作確認を行ってください。
4. 事前に、Zoomのウェブサイト(<https://zoom.us/>)からミーティング用Zoomクライアントをダウンロードし、インストールしておいてください。
5. ウェブブラウザを使用し、神戸大学バーチャル会場(<https://virtualconference.jp/>)にお越しください。
6. 2020年7月9日(木)に送信するログインIDとパスワードを使用し、第1バーチャル会場に入室してください。Zoomクライアントが起動しますので、他の発表者と調整しながら、動作確認をお願いします。

基調講演／鼎談／特別講演への登壇

7. 2020年7月12日(日)の発表予定時刻の30分前に、神戸大学バーチャル会場へお越しください。2020年7月9日(木)に送信するログインIDとパスワードを使用し、バーチャル会場に入場してください。次に現れるプログラムから第1バーチャル会場をクリックするとZoomクライアントが起動しますので、入室してください。

8. 第1バーチャル会場は、Zoom ウェビナーにてライブ配信いたします。開始時間になりましたらアナウンスをいたしますので、Zoom の画面共有を開始して発表してください。事前に録画した動画を配信しても結構です。
9. 時間厳守をお願いします。質疑応答のための時間は設定しておりません。

基調講演／鼎談／特別講演の動画公開

10. 基調講演／鼎談／特別講演の内容は事務局が録画し、第1バーチャル会場において、2020年7月14日(火)から2020年8月1日(土)までの期間、非同期型(オンデマンド型)で参加者のみに公開します。参加者から電子メールでコメントがあった場合は、個人的にご対応ください。
11. 公開が終了後、ウェブサイトを閉鎖し、データは事務局が責任をもって消去します。

The keynote speaker, participants in three-way discussion and those making special lecture are requested to follow the guidelines shown below:

Preparation of slides

1. To produce slides, please use Microsoft PowerPoint (Microsoft), Keynote (Apple) or other similar software.
2. Set the slide size for wide screens, with a width of 33.87 or 33.867 cm and a height of 19.05 cm. A sufficient degree of IT literacy is required to use Zoom, for example such as knowing not to use the settings for transition effects when changing slides. If participating with one display monitor, please do not utilize Microsoft PowerPoint presenter's tools (otherwise memos will be visible to the participants).

Confirmation of Zoom Webinar operation

3. Operation confirmation can be performed during the hours from 13:00 to 15:00 on July 11, 2020 (Saturday). Those presenters who have concerns over use of Zoom Webinar are requested to confirm operation during these hours.
4. Prior to the conference, please go to the Zoom web site (<https://zoom.us/>) and download the Zoom client and install it on your personal computer.
5. Utilizing your web browser software, go to the Kobe University Virtual Conference (<https://virtualconference.jp/>).
6. Utilizing the log-in ID and password that you will be issued on July 9, 2020 (Thursday), please enter the First Virtual Conference Room. The Zoom client will be activated, so while making adjustments with the other presenters, confirm that it is operating properly.

To those conducting Keynote address/ Three-way discussion/ and Special lecture

7. Thirty minutes prior to the scheduled start of the presentations on July 12, 2020 (Sunday), go to the Kobe University Virtual Conference site. Utilizing the log-in ID and password that you will be issued on July 9, 2020 (Thursday), please enter the Virtual Conference. Next from the program that appears on the screen, click on the First Virtual Conference Room. The Zoom client will be activated, permitting you to enter the room.
8. Zoom Webinar will stream the live proceedings from the First Virtual Conference Room. As we will announce the start of each activity, please begin to show your presentation using the Share Screen function of the Zoom. You may also transmit your recorded videos prior to the scheduled start.
9. Please adhere closely to the allotted time schedule. The duration has not been fixed in order to allow for questions and answers.

Access to videos of Keynote address/ Three-way discussion/ and Special lecture

10. The Secretariat will record the contents of the Keynote address/ Three-way discussion/ and Special lecture, and provide them on demand, only to registered participants, in the First Virtual Conference Room. The videos will be available from July 14 (Tuesday) to August 1, 2020 (Saturday). If you receive any comments from other participants via email, please reply to them directly.
11. At the end of the duration of the showing, the web site will be shut down and the Secretariat will take responsibility for deleting all the data.

ワークショップのご案内

Guide to the workshops

下記のガイドラインにしたがって、ワークショップにご登壇ください。

スライドの準備

1. スライド作成には、Microsoft PowerPoint (マイクロソフト)、Keynote (アップル) などを使用してください。
2. スライドのサイズをワイド画面に設定し、幅は33.87もしくは33.867 cm、高さは19.05 cmに指定してください。なお、スライドのトランジション(画面遷移)は設定しないなど、Zoomを使用する際のITリテラシーを備えてください。また、1台のモニタ(ディスプレイ)で参加する場合、Microsoft PowerPointの発表者ツールを使用しないでください(参加者にメモが見えてしまいます)。

Zoom ミーティング動作確認

3. 2020年7月11日(土)の13:00から15:00を動作確認の時間とします。Zoom ミーティングの使用に不安のある発表者は、この時間帯に動作確認を行ってください。
4. 事前に、Zoomのウェブサイト(<https://zoom.us/>)からミーティング用Zoomクライアントをダウンロードし、パソコンにインストールしておいてください。
5. ウェブブラウザを使用し、神戸大学バーチャル会場(<https://virtualconference.jp/>)にお越しください。
6. 2020年7月9日(木)に送信するログインIDとパスワードを使用し、第2バーチャル会場に入室してください。Zoomクライアントが起動しますので、他の発表者と調整しながら、動作確認をお願いします。

ワークショップへの登壇

7. 2020年7月12日(日)の発表予定時刻の30分前に、神戸大学バーチャル会場へお越しください。2020年7月9日(木)に送信するログインIDとパスワードを使用し、バーチャル会場に入場してください。次に現れるプログラムから第2バーチャル会場をクリックするとZoomクライアントが起動しますので、入室してください。
8. 第2バーチャル会場は、Zoom ミーティングにてライブ配信いたします。開始時間になりましたらアナウンスをいたしますので、Zoomの画面共有を開始して発表してください。事前に録画した動画を配信しても結構です。
9. 時間厳守をお願いします。

ワークショップの動画公開

10. ワークショップの内容は事務局が録画し、第2バーチャル会場において、2020年7月14日(火)から2020年8月1日(土)までの期間、非同期型(オンデマンド型)で参加者のみに公開します。参加者から電子メールでコメントがあった場合は、個人的にご対応ください。
11. 公開が終了後、ウェブサイトを閉鎖し、データは事務局が責任をもって消去します。

Participants conducting workshops are requested to follow the guidelines shown below:

Preparation of slides

1. To produce slides, please use Microsoft PowerPoint (Microsoft), Keynote (Apple) or other similar software.
2. Set the slide size for wide screens, with a width of 33.87 or 33.867 cm and a height of 19.05 cm. A sufficient degree of IT literacy is required to use Zoom, for example such as knowing not to use the settings for transition effects when changing slides. If participating with one display monitor, please do not utilize Microsoft PowerPoint presenter's tools (otherwise memos will be visible to the participants).

Confirmation of Zoom Meeting operation

3. Operation confirmation can be performed during the hours from 13:00 to 15:00 on July 11, 2020 (Saturday). Those presenters who have concerns over use of Zoom Meeting are requested to confirm operation during these hours.
4. Prior to the conference, please go to the Zoom web site (<https://zoom.us/>) and download the Zoom client and install it on your personal computer.
5. Utilizing your web browser software, go to the Kobe University Virtual Conference (<https://virtualconference.jp/>).
6. Utilizing the log-in ID and password that you will be issued on July 9, 2020 (Thursday), please enter the Second Virtual Conference Room. The Zoom client will be activated, so while making adjustments with the other presenters, confirm that it is operating properly.

To those conducting workshops

7. Thirty minutes prior to the scheduled start of the presentations on July 12, 2020 (Sunday), go to the Kobe University Virtual Conference site. Utilizing the log-in ID and password that you will be issued on July 9, 2020 (Thursday), please enter the Virtual Conference. Next from the program that appears on the screen, click on the Second Virtual Conference Room. The Zoom client will be activated, permitting you to enter the room.
8. Zoom Meeting will stream the live proceedings from the Second Virtual Conference Room. As we will announce the start of each activity, please begin to show your presentation using the Share Screen function of the Zoom. You may also transmit your recorded videos prior to the scheduled start.
9. Please adhere closely to the allotted time schedule.

Showing of Workshop videos

10. The Secretariat will record the contents of the Workshop, and provide it on demand, only to registered participants, in the Second Virtual Conference Room. The videos will be available from July 14 (Tuesday) to August 1, 2020 (Saturday). If you receive any comments from other participants via email, please reply to them directly.
11. At the end of the duration of the showing, the web site will be shut down and the Secretariat will take responsibility for deleting all the data.

プログラム

2020年7月12日(日)

第1バーチャル会場 (Zoom ウェビナーにてライブ配信)

10:00～10:50 **会長講演** [日本語]

文化を考慮した最善の家族ケア／ケアリング／ヒーリング

法橋 尚宏 文化看護学会第12回学術集会 会長、
神戸大学大学院保健学研究科 家族看護学分野 (家族支援 CNS コース) 教授

11:00～11:50 **基調講演** [日本語]

日本文化型看護学の解明に大切な4つの視点

石垣 和子 石川県立看護大学

13:00～14:10 **鼎 談** [日本語]

[日本文化型看護学の序章から第一章]

日本文化型看護学の序章

望月 由紀 東都大学ヒューマンケア学部 准教授

身体性について —「入浴」を通して身体性に配慮したケアを考える—

岡田 忍 千葉大学大学院看護学研究科

関係性について

正木 治恵 千葉大学大学院看護学研究科

14:20～15:20 **特別講演1** [日本語]

アジア文化のケアに影響を与える中国医学とは

今中 健二 中国江西省第四人民医院 中医師、
株式会社同仁広大 代表取締役

15:30～16:30 **特別講演2** [日本語]

多文化に対応できる看護職を育成する

二見 茜 東京医科歯科大学医学部附属病院 国際医療部

ゲストスピーカー：マリア アラウコ 三重大学附属病院

第2バーチャル会場 (Zoom ミーティングにてライブ配信)

13:00～14:00 **ワークショップ1**

[英語]

TIRAPY - Neuro-endocrine Therapy

Beneficial effect on disorders of movement utilizing the newly developed

TIRAPY With Tiraball system

タイチーセラピーの理論と実践

Titan Vincent Lam, Prescription Exercise & Qigong Therapist

G for Health, Hong Kong

14:20～15:20 **ワークショップ2**

[日本語]

EPA ナースからみた看護文化の多様性と普遍性

上杉 裕子 神戸大学大学院保健学研究科 パブリックヘルス領域

スピーカー: Efri Yanti Sitanggang

ベリタス病院

Sarah Jane B. Galvez

サンバリー福岡病院

Nailan Jay Alejandro

福祉村病院

第3バーチャル会場(ウェブサイトにてポスターを掲示)

10:00~16:30 ポスタービューイング

[日本語]

- P-01** エスノグラフィーの分析から見る在日ベトナム人女性の妊娠・分娩・育児
Pregnancy, delivery and childcare services for Vietnamese women in Japan:
An ethnographic study
- 西村 香織、松井 弘美、三加 るり子、村田 美代子、工藤 里香
富山県立大学 看護学部 母性看護学講座
- Kaori Nishimura, Hiromi Matsui, Ruriko Sanga, Miyoko Murata, Rika Kudo
School of nursing, Toyama Prefectural University
- P-02** エスノグラフィーの分析から見る在日中国人女性の妊娠・分娩・育児
Pregnancy, delivery and childcare services for Chinese women in Japan:
An ethnographic study
- 西村 香織、松井 弘美、工藤 里香、三加 るり子、村田 美代子
富山県立大学 看護学部 母性看護学講座
- Kaori Nishimura, Hiromi Matsui, Rika Kudo, Ruriko Sanga, Miyoko Murata
School of nursing, Toyama Prefectural University
- P-03** 紛争地域の病院におけるケアヘルスワーカーへの感染症対策教育効果：
イラク共和国の小児がん病棟
Effectiveness of infection control education for care providers in a hospital in a conflict zone:
A case of a pediatric oncology ward in the Republic of Iraq
- 伊藤 尚子¹⁾、宮本 圭²⁾、仲井 あや³⁾、佐藤 真紀⁴⁾、ヒワ ジャフ⁵⁾
1)山陽学園大学 看護学部 看護学科 基礎看護学領域、2) 順天堂大学 医療看護学部 在宅看護学分野、
3)千葉大学大学院 看護学研究科 小児看護学領域、4)チーム ベコ、5)イラク共和国エルビル県保健局
- Takako Ito¹⁾, Kei Miyamoto²⁾, Aya Nakai³⁾, Maki Sato⁴⁾, Jaff Hiwa⁵⁾
1) Sanyo Gakuen University, Department of Nursing, 2) Juntendo University, Faculty of Health Care and Nursing,
3) Chiba University, School of Nursing, 4) Team Beko, 5) Erbil Directorate of Health, Iraq
- P-04** 中国文化を内在化しつつ日本に永住帰国した中国残留日本人孤児の
ストレス対処力と関係する特性
Sense of coherence and related characteristics among Japanese war-displaced orphans
repatriated from China
- 石井 恵美子¹⁾、永野 光子²⁾、野崎 真奈美²⁾
1) 順天堂大学大学院 医療看護学研究科 博士前期課程、2) 順天堂大学大学院 医療看護学研究科
- Emiko Ishii¹⁾, Mitsuko Nagano²⁾, Manami Nozaki²⁾
1) Juntendo University Graduate School of Health Care and Nursing,
2) Juntendo University Graduate School of Health Care and Nursing
- P-05** マイノリティの記憶を伝える場としての福祉：在日コリアン高齢者ケアを事例に
Welfare as a setting to transmit the memories of minority group members:
A case study of ethnic Korean elderly in Japan
- 伊藤 尚子
公立小松大学 保健医療学部 看護学科
- Naoko Ito
Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, komatsu university

- P-06** 外国人患者が安心してケアを受けられる支援の考察：
ドバイ出身難病患儿の制度利用を通じて
Support through the health system:
A case study of a pediatric patient from Dubai with a chronic disease
○松本 晴美、江島 咲紀
千葉大学医学部附属病院
○Harumi Matsumoto, Saki Eshima
chiba university hospital
- P-07** 異文化で働く看護師へ地域文化を取り入れる看護実践：
院内敬老会の発案者の看護観から
Introduction of local culture into a nursing practice of nurses with different cultures:
The philosophy of a manager who developed KEIROUKAI (group devoted to the elderly) in
an island hospital
○鈴木 美恵¹⁾、津波 勝代¹⁾、田場 由紀²⁾、大湾 明美²⁾
1) 公立久米島病院、2) 沖縄県立看護大学
○Mie Suzuki¹⁾, Katuyo Tuha¹⁾, Yuki Taba²⁾, Akemi Ohwan²⁾
1) kumejima Municipal Hospital, 2) Okinawa Prefectural College of Nursing
- P-08** 保健師の災害時保健活動経験に対する意味づけ：
文献レビュー(被災地の市町村保健師と派遣保健師の比較)
Assessing the significance in post-disaster health activities between public health nurses in
affected areas and dispatched public health nurses
○井口 紗織¹⁾、石丸 美奈²⁾
1) 千葉大学大学院 看護学研究科 博士後期課程、2) 千葉大学大学院 看護学研究科
○Saori Iguchi¹⁾, Mina Ishimaru²⁾
1) Graduate School of Nursing, Doctoral Program, Chiba University, 2) Graduate School of Nursing, Chiba University
- P-09** 保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくりのための協働モデルの
有効性と実用性の検証(第1報)：保健師による評価
Verification of efficiency and practicality of a collaborative model for community health
promotion through community health worker empowerment (First report):
Evaluation by public health nurses
○松井 理恵¹⁾、宮崎 美砂子²⁾、石丸 美奈²⁾
1) 群馬大学大学院 保健学研究科、2) 千葉大学大学院 看護学研究科
○Rie Matsui¹⁾, Misako Miyazaki²⁾, Mina Ishimaru²⁾
1) Gunma University Graduate School of Health Sciences, 2) Chiba University Graduate School of Nursing
- P-10** 保健推進員のエンパワメントを通じた地域の健康づくりのための協働モデルの
有効性と実用性の検証(第2報)：保健推進員による評価
Verification of efficiency and practicality of a collaborative model for community health
promotion through community health worker empowerment (Second report):
Evaluation by community health workers
○松井 理恵¹⁾、宮崎 美砂子²⁾、石丸 美奈²⁾
1) 群馬大学大学院 保健学研究科、2) 千葉大学大学院 看護学研究科
○Rie Matsui¹⁾, Misako Miyazaki²⁾, Mina Ishimaru²⁾
1) Gunma University Graduate School of Health Sciences, 2) Chiba University Graduate School of Nursing

- P-11** 在日外国人へ訪問看護を提供する看護師が経験する困難と対処
Coping with nursing difficulties experienced in providing home-visit nursing to foreign residents in Japan
○松浦 志野、宮本 圭、伊藤 隆子
順天堂大学 医療看護学部
○Shino Matsuura, Kei Miyamoto, Ryuko Ito
Juntendo University Faculty of Health Care and Nursing
- P-12** 外国人糖尿病患者の糖尿病認定看護師の対応の現状
Current status of diabetes nursing certified nurses for foreigners with diabetes
○上杉 裕子¹⁾、鈴木 愛絵²⁾、八重垣 里菜³⁾、細名 水生¹⁾
1) 神戸大学大学院 保健学研究科、2) 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター、3) 株式会社ブリヂストン
○Yuko Uesugi¹⁾, Manaka Suzuki²⁾, Rina Yaegaki³⁾, Mio Hosona¹⁾
1) Graduate School of Health Sciences, Kobe University, 2) Osaka International Cancer Institute, 3) Bridgestone Corporation
- P-13** 壮年期未婚男性の生活習慣病予防に関するセルフケア行動
Self-care behavior for lifestyle-related disease prevention of unmarried middle-aged men: An interview survey of male co-workers
○高橋 秀治¹⁾³⁾、石丸 美奈²⁾
1) 宮崎県立看護大学、2) 千葉大学大学院 看護学研究科、3) 千葉大学大学院 看護学研究科 博士後期課程
○Shuji Takahashi¹⁾³⁾, Mina Ishimaru²⁾
1) Miyazaki Prefectural Nursing University, 2) Chiba university, graduate school of nursing, 3) Graduate School of Nursing, Doctoral Program, Chiba University,
- P-14** がん看護と高齢者看護の視点を融合した看護師の看護観とケア行動
Values and behaviors of oncology nurses combining cancer nursing and gerontological nursing
○天野 薫
名古屋市立大学大学院 看護学研究科
○Kaoru Amano
Graduate School of Nursing, Nagoya City University
- P-15** 地域文化ケアを実践するケア提供者の“楽しみ”の文化的感受性
A cultural sensitivity“pleasure”of care providers practicing culture-based care
○呉地 祥友里¹⁾、大湾 明美²⁾、田場 由紀²⁾
1) 元沖縄県立看護大学 博士後期課程、2) 沖縄県立看護大学
○Sayuri Kurechi¹⁾, Akemi Ohwan²⁾, Yuki Taba²⁾
1) Professor of nursing at Okinawa Prefectural College of Nursing (origin of the study), 2) Okinawa Prefectural College of Nursing
- P-16** 他者と共に「生きる」を紡ぐ：HIV 陽性者の治療継続のエスノグラフィー
Interlacing the way to“living”with others: Ethnography of HIV-positive people undergoing continuing treatment
○首藤 真由美¹⁾、辻内 琢也²⁾
1) 首都大学東京大学院 (現 東京都立大学)、2) 早稲田大学
○Mayumi Shudo¹⁾, Takuya Tsujiuchi²⁾
1) Tokyo metropolitan university, 2) Waseda University

- P-17** 看護技術教科書に記載されている死後の処置での儀礼的行為とその目的
Ritual acts of postmortem care and their purpose as appearing in nursing textbooks in Japan
- 梅野 華乃子
早稲田大学 大学院 人間科学研究科
 - Kanoko Umeno
Graduated School of Human Sciences, Waseda University
- P-18** 日本における看護系大学教員による異文化間看護に関する実践能力：
異文化間看護教育ニーズの理解に向けて
Transcultural nursing perspectives of a nursing university faculty in Japan:
Toward an understanding of transcultural nursing education needs
- Hensley Joel
宮崎県立看護大学
 - Joel Hensley
Miyazaki Prefectural Nursing University

講演抄録

Abstracts

会長講演



文化を考慮した最善の 家族ケア／ケアリング／ヒーリング

法橋 尚宏 文化看護学会第12回学術集会 会長、
神戸大学大学院保健学研究科 家族看護学分野(家族支援 CNS コース) 教授

1. 文化差と家族差

文化差 [cultural differences] は、“複数の時空間の間における文化の差異”であり、事物の存在の差異と事物の本質の差異に分けられる。たとえば、国・地域の間におけるマクロな文化の差異、個人の間におけるミクロな文化の差異、過去と現在の間におけるクロノな文化の差異がある。家族は、家族環境の中に存在し、場所(家族環境)によって家族のありようが影響される。家族環境の中に文化が含まれており、家族は文化差の視座からより適切に理解できる。

家族差 [differences among families] は、“複数の家族の間における諸特性の差異”である。看護職者には、対象となるひとの個人差や家族の家族差を見極める特質が求められる。家族支援の対象となる家族の家族差をアセスメントし、個別性のある家族支援を行うことが、家族支援の根幹をなす鉄則である。

また、家族差は家族の多様性のことであり、家族には普遍性 [universality] と多様性 [diversity] が認められる。普遍性(共通性)とは“すべてに共通する性質”であり、多様性を貫いて存在している。多様性(異質性)とは“異なる群が存在する性質”である。これは、性質が類似した群が形成されていることであり、さまざまな性質があることとは異なる。多様性と普遍性は相互補完関係にあり、多様性の中に普遍性が成立する。たとえば、“家族は大切な存在である”というのは、家族に関する普遍性である。“同性カップルの存在”は、パートナーシップに関する多様性である。

2. トランス文化家族看護学

看護の対象として、ひと、家族、コミュニティがあげられる。これらのうち、ひとは個人看護(小児看護、母性看護、成人看護、老年看護、精神看護など)、家族は家族看護、コミュニティは地域看護・公衆衛生看護が主として担う。家族看護が対象とする家族は、ひとが集まった組織であり、コミュニティの中で生活を営んでいる。したがって、必然的に家族看護はコミュニティにおいて実践されることが多くなる。

家族 [family] とは“他の構成員から帰属認識されているひと(生者)の和集合で構成されるシステムとしてのユニット組織”と定義している(Hohashi, 2019)。ここで、生者とは、出生から死亡までの範囲とする。家族は多様化しており、同居の有無、血縁関係や婚姻関係は問わない。家族員が家族の組織成員になるということは、その家族文化を身につける(身体化)ということであり、関係に関する構築主義的な考え方が重要である。

文化 [culture] とは“環境に適応するために、ある集団／組織の構成員間で共有されたビリーフと価値観(潜在文化)、それらに規定される行為様式(顕在文化)”と

定義している (Hohashi, 2019)。さらに、トランス文化家族看護学 [transcultural family health care nursing] を提唱し、“家族システムユニットの文化差を踏まえて、家族ケア／ケアリング／ヒーリングを実践するための実践科学”と定義している (Hohashi, 2017)。そして、アメリカや日本といったマクロな文化から、日本の都市部と地方部、さらには、ひとり親家族とふたり親家族のようにミクロな文化を網羅した多様な家族看護学研究を行っている。なお、文化は、ひとびとの言葉、食べ物、服装、伝統、習慣などに反映される。さらに、家族構造、家族機能、家族ビリーフなどにも反映され、家族ウェルビーイングに影響をあたえている。

3. 西洋文化と東洋文化を越えた枠組み

文化の種類は無数にあり、文化の区切りも国、地域、民族、集団、家族など多岐にわたる。文化は、ひとびとの行為を支配するビリーフと価値観で構成される。そこで、ターゲットファミリーの家族差を理解し、家族／家族員の文化に適した家族ケア／ケアリングを提供するために、トランス文化家族看護学の智慧を働かさなければならない。

異なる文化との出会いは、カルチャーショックに象徴されるように、ひとにとって否定的な反応を示すことがある。看護職者は、ターゲットファミリーが自分とは異なる文化をもっていることで、その文化現象に否定的な反応を示し、看護職者自身の文化にしたがうように家族支援を実践してしまう恐れがある。家族は、家族にとって文化的に満足できる支援を受ける権利がある。看護職者は、多種多様な文化をもつ家族を対象とするので、1) 自文化(看護職者の文化)、2) 異文化(家族の文化)、3) 環境の文化(看護職者の文化と家族の文化が出会う環境の文化)に注意を払わなければならない。

私の研究と実践は、日本の幅広い地域(都心部、地方部、島嶼部、山間部など)で生活する家族、さまざまな国・地域(アメリカ、カナダ、日本、中国(香港)、インドネシア、フィリピンなど)で生活する家族を対象としている。これらの国・地域において、1999年に家族同心球環境理論(Concentric Sphere Family Environment Theory, CSFET)の開発に着手した。これは、合計950家族以上を対象とした家族インタビュー／ミーティングの実施、合計5万枚以上の質問紙調査の実施、家族エスノグラフィーなどのマルチメソッド研究にもとづいて開発したグローバルな理論である。

なお、接頭辞のトランス [tran-] は“超越して [transcend]”の意味であり、トランス文化家族看護学は、文化の壁を乗り越えて実践する学問を意味する。近年、交通やメディアの発達とともに時間と空間の圧縮が進み、多文化のひとびとの交流が増え、多文化共生が課題となっている。時間、空間、民族、性、年齢など、諸々の壁を乗り越えた家族看護学が不可欠な時代になっている。看護職者は自分とは異なる文化背景をもつ家族に働きかけるため、トランス文化家族看護学のナレッジが特に必要となる。

家族同心球環境理論において、“家族ウェルビーイングに作用する機能をもつ家族環境の項目”である機能性項目 [functional indicator] には、文化が含まれている。家族同心球環境理論は、家族文化の多様性分析軸として有効であり、地域性(構造的距離と機能的距離)と時代性(時間的距離)を絡ませつつ、家族のありようや文化を相対化できる。トランス文化家族看護学においては、東洋対西洋のような二項対立ではなく、さまざまな文化を越えた枠組みで家族アセスメントと家族ケア／ケアリングを行うことが重要である。

4. 家族ケア／ケアリング

家族現象の説明は、理論があってはじめて可能となる。私は、日本発の家族看護理論として、3大家族看護理論を提唱している。“家族同心球環境理論 (Hohashi, 2011)、家族ケア／ケアリング理論 (Family Care/Caring Theory, FCCT) (Hohashi, 2015)、家族ビリーフシステム理論 (Family Belief Systems Theory, FBST) (Hohashi, 2019) のことである。家族同心球環境理論にもとづいた家族看護活動を行うための理論が家族ケア／ケアリング理論、家族同心球環境理論の機能性項目である“家族のルール・ビリーフ”に特化した理論が家族ビリーフシステム理論である。

家族ケア／ケアリング理論は、“家族システムユニットと看護職者との関係で生じる看護現象と家族現象を説明し、家族ケア／ケアリング関係の確立過程に焦点化した家族看護中範囲理論”である。なお、名詞としての家族ケアは、看護職者が他職種者(多職種者)と共同して行う家族への具体的行為であり、“ターゲットファミリーの家族ウェルビーイングを維持・向上させるための行為(実践)”であると定義している。また、動名詞としての家族ケアリングは、家族ケアにみられる現象(看護現象と家族現象)であり、家族システムユニットと看護職者との交互作用、あるいはその円環的プロセスであり、“家族のビリーフ、意向、希望を知り、それを家族ケアに生かす態度”であると定義している。

家族ケア／ケアリング環境という家族環境において、看護職者が家族システムユニットを“ケアする”、逆に看護職者が家族システムユニットから“ケアされる”という円環的な交互作用(相互行為)が展開されている。構造的距離と機能的距離で形成する2次元平面でみると、家族ケアリングは同心円構造をしており、この交互作用によって、看護職者と家族システムユニットの間の構造的距離と機能的距離が漸次近接し、相互信頼が深化することで適度な距離を保つ。さらに、これに時間的距離を加えて形成される3次元時空間でみると、家族ケアリングは螺旋状構造をしており、この交互作用を繰り返す時間軸の中で、構造的距離と機能的距離が適度に保たれ、家族システムユニットの他已実現と看護職者の自己実現が達成できる。これらのプロセスにより、ターゲットファミリーと看護職者との家族ケア／ケアリング関係が強化され、確立に至る。

5. 家族ヒーリング

法橋(2010年)は、家族システムユニットの三元理論(家族システムユニットのトリコトムス・セオリー) [Trichotomous Theory of the Family System Unit, TTFSU] を提唱している。これは、“家族システムユニットは、物理体、心理体、スピリチュアル体から構成されており、これら三体が相互連関している統一体であることを規定する家族看護大理論”である。体とは、“物事がはたらきをする、もとをなす存在”である。

物理体(肉体)とは、目に見える世界の物理空間において、家族構造を意味する。心理体(感情体)とは、目に見えない世界の情報空間において、家族機能を意味する。スピリチュアル体とは、目に見えない世界の情報空間において、家族スピリチュアリティを意味する。

家族ヒーリング [family healing] とは、“家族システムユニットの三体(物理体、心理体、スピリチュアル体)を総体的に支持し、機能を調節し、能力を与える治療”である。家族ヒーリングによって、家族の自己実現、家族ウェルビーイングが可能になる。

6. 文化を考慮した家族ケア／ケアリング

家族の最善の利益 [family's best interests] とは、“家族にとって最もよいこと”である。家族看護学では、家族の最善の利益を基軸にし、将来を予測して家族ケア／ケアリングを考えることが不可欠である。これは、当事者である家族がどう考えるかを受けとめ、家族と看護職者とがお互いの納得を形成する態度の必要性を示している。逆にいえば、家族が何を希望しているのか(家族デマンド)を知らずして、家族の最善の利益を尊重した家族ケア／ケアリングは成り立たない。なお、“家族が何を希望しているのか”は、家族同心球環境理論のクロノシステム(家族時間環境システム)でアセスメントできる。

文化を考慮した家族ケア／ケアリング [culturally congruent family care/caring] とは、“ターゲットファミリーと看護職者の文化差を理解、尊重、受容した上で提供する、文化に調和した家族ケア／ケアリング”である。また、多文化対応能力 [cultural competence] は、“家族と家族環境の文化に応えた家族ケア／ケアリング／ヒーリングを提供できる能力”である。文化を考慮した家族ケア／ケアリングにより、文化的多様性を尊重し、ターゲットファミリーが考えるレベルとプロセスをもとにして家族ウェルビーイングを実現できる。

【文 献】

- 1) Hohashi, N., & Honda, J. (2011). Development of the Concentric Sphere Family Environment Model and companion tools for culturally congruent family assessment. *Journal of Transcultural Nursing*, 22(4), 350-361. doi:10.1177/1043659611414200
- 2) Hohashi, N., & Honda, J. (2015). Concept development and implementation of Family Care/Caring Theory in Concentric Sphere Family Environment Theory. *Open Journal of Nursing*, 5(9), 749-757. doi:10.4236/ojn.2015.59078
- 3) Hohashi, N. (2019). A Family Belief Systems Theory for transcultural family health care nursing. *Journal of Transcultural Nursing*, 30(5), 434-443. doi:10.1177/1043659619853017
- 4) Hohashi, N. (2017). Establishing transcultural family health care nursing. *Journal of Transcultural Nursing*, 28(4), 430. doi:10.1177/1043659617709075

略 歴

1993年東京大学大学院医学系研究科博士課程中退(博士号取得)。

東京大学大学院医学系研究科講師などを経て、2006年より神戸大学医学部(小児・家族看護学)教授。

2008年に大学院重点化により、神戸大学大学院保健学研究科(家族看護学分野)教授。

大学院博士課程前期課程では、家族支援専門看護師(Certified Nurse Specialist, CNS)コースを担当。国外では、*Journal of Transcultural Nursing* 編集委員、*International Journal for Human Caring* 編集顧問委員など。国内では、文化看護学会理事、日本家族看護学会理事など。著書は、『新しい家族看護学：理論・実践・研究(法橋尚宏編集)、メヂカルフレンド社、2010』など、100冊以上。原著論文は、“Development of the Concentric Sphere Family Environment Model and companion tools for culturally congruent family assessment, *Journal of Transcultural Nursing*, 2011”など、100本以上。健康関連製品として、“メディカル・サウンド：ヒーリング環境音とノイズ”、“メディカル・エッセンシャルオイル”などの製造を手がけている。

2014年 Transcultural Nursing Society より Transcultural Nursing Scholar の称号を授与。2016年 American Academy of Nursing (AAN) より Fellow of the American Academy of Nursing (FAAN) の称号を授与。その他、Caritas Coach など、多数の資格を保有。

個人の Web サイトは、<https://nursingresearch.jp/> である。

一般演題抄録

Abstracts

P-01

エスノグラフィーの分析から見る在日ベトナム人女性の妊娠・分娩・育児

Pregnancy, delivery and childcare services for Vietnamese women in Japan: An ethnographic study

○西村 香織、松井 弘美、三加 るり子、村田 美代子、工藤 里香
富山県立大学 看護学部 母性看護学講座

○Kaori Nishimura, Hiromi Matsui, Ruriko Sanga, Miyoko Murata, Rika Kudo
School of nursing, Toyama Prefectural University

【目的】 富山県では研修生や技能実習生の受け入れにより、ベトナム人登録者数は増加している。本研究は、今後も増加すると予想される在日ベトナム人女性が安全に、かつ安心して日本の医療を受けられるように、ベトナム人女性の妊娠・分娩・育児の状況を明らかにすることを目的とした。

【方法】

1. 研究デザイン

エスノグラフィーを用いた質的記述的研究。

2. 調査期間および研究協力者

調査期間は2019年7月～2019年11月。研究協力は日本で妊娠・出産・育児を行うベトナム人女性で、研究に同意の得られた妊婦2名とその家族や友人。

3. データ収集方法

参加観察と半構成的面接。

妊娠期から産後2か月に家庭訪問等で4回の面接を実施。参加観察では妊婦健診や分娩時の付き添いを行った。

4. 分析方法

エスノグラフィーによる分析。

5. 倫理的配慮

本研究は富山県立大学看護学部の倫理審査の承認を得て実施した(承認番号 R1-2)。

研究目的と方法・参加や研究協力撤回への自由意思、個人情報保護や成果の公表に関して説明し署名を得た。

【結果】 在日ベトナム人女性の共通する行動や考え方のパターンは、ベトナム人女性は「ベトナムの家族を大切にしながら」、「日本で生活するために日本語を習得する努力をしていた」。また「日本で妊娠・出産・育児のサポートは夫だけである」ことから、「フェイスブックを情報源やベトナム人の友だち作りに活用していた」。

「ベトナムの妊婦にとって、妊娠12週の超音波検査(ダウン症の検査)は最も大事だと認識している」ため、「日本で、全妊婦に検査が実施されないことに不安を感じていた」。

産後は、困ったときや緊急時に身近に聞く事ができる日本人の専門家を求めていた。また、「ベトナムでの産後のサポートシステムや助け合いは日常的であることから、沐浴を自分で行う感覚はなく」、「もらい母乳は助け合いで自然の事である」と考えていた。子育てに関しては、「赤ちゃんが元気であれば、子育てそのものは困っていない」が、「日本での生活や子育てに窮屈感やさみしさを感じていた」。

【考察】 在日ベトナム人女性の妊娠・出産・育児へのパターンには、ベトナムでの一般的なことが影響している。一方で日本の妊娠・出産・育児を取り入れ、折り合いをつけた行動パターンとなっている。日本の育児環境は、日本人にとっても孤独を感じ、助け合いの育児文化が発展しているベトナム人女性にとっては、さらに孤独を感じる環境である。また、社会システムの違いが、医療専門職へのアクセスを妨げている。本研究を通して「育児の孤独」や「医療専門職へのアクセス不足」が浮き彫りとなり、これらを解決することは、在日外国人のみならず日本人の育児へも有用である。

【参考文献】

Janice M. Roper, Jill Shapira. 麻原きよみ, グレック美鈴訳. 看護における質的研究①エスノグラフィー. 日本看護協会出版会, 2003.

【利益相反の開示】 本研究における利益相反は存在しない。

科研費：研究課題番号19K24168

P-02

エスノグラフィーの分析から見る在日中国人女性の妊娠・分娩・育児

Pregnancy, delivery and childcare services for Chinese women in Japan:
An ethnographic study

○西村 香織、松井 弘美、工藤 里香、三加 るり子、村田 美代子
富山県立大学 看護学部 母性看護学講座

○Kaori Nishimura, Hiromi Matsui, Rika Kudo, Ruriko Sanga, Miyoko Murata
School of nursing, Toyama Prefectural University

【目的】 本研究は、在日中国人女性が安全に、かつ安心して日本の医療を受けられるために、日本における中国人女性の妊娠・分娩・育児の状況を明らかにすることを目的とした。

【方法】

1. 調査期間および研究協力者

調査期間は2019年12月～2020年5月(予定)。研究協力者は日本で妊娠・出産・育児を行う中国人女性で、研究に同意の得られた妊婦2名(初産婦1名、経産婦1名)とその家族。

2. データ収集方法

参加観察と半構成的面接。妊娠期から産後2か月に3～4回の家庭訪問で面接を実施した。参加観察は妊婦健診の付き添いを行った。

3. 分析方法

エスノグラフィーによる分析。

4. 倫理的配慮

本研究は富山県立大学看護学部の倫理審査の承認を得て実施した(承認番号R1-2)。研究目的・方法・参加への自由意思、研究協力撤回の自由、個人情報保護や研究成果の公表に関することを説明した。

【結果】 対象の共通する行動や考え方のパターンとして、妊娠・出産・産後の「キーパーソンである実母の考えに従いながら」、「日本でも、中国の食事やシャワー、産後の肥立ちなどの慣習に基づいて生活していた」。また、出産方法については「中国では帝王切開が多く受け入れられており」、「帝王切開を希望することは当然のこととして考えていた」。産後も「子育ての中心は実母であり、自分自身の心身両面のサポーターとして頼っていた」。中国では「産後母親が仕事復帰し、祖母が孫育てをすることは一般的である」

と考えていた。中国で第1子を出産した経産婦にとっては、「中国の妊婦にとって婚前医学検査」や「妊娠20週の超音波検査(胎児形態異常検査)は最も大事」だと認識し「奇形があれば、ほとんどの妊婦は人工妊娠中絶を選択し児をあきらめる」ことから、「日本では、妊娠20週に検査が行われず、胎児に奇形があるか不安を感じていた」。さらに、中国と比較し「日本で妊娠中や出産時に一律で質の高いサービスが受けられるシステムは良いと評価している」が、「日本での生活や子育てに寂しさを感じていた」。

【考察】 在日中国人女性の妊娠・出産・育児のパターンには、中国での家族関係や慣習が影響している。子どもを産み育てる女性は、家族に大切にされるべき存在として捉えられ、特にキーパーソンである実母が子育てに加わり、心身両面で支援することは実母の当然の役割であると認識していた。一方で、食事や、シャワー、産後の肥立ちなど実母からの文化の伝承に関して、ジレンマを感じつつも実母の思いに従う行動パターンであった。中国人女性の支援には実母の支援状況をふまえ、実母を中心に機能している視点から働きかける必要がある(5月までデータ収集を行い、結果を追加する)。

【参考文献】

蛸崎奈津子(2010): 中国・吉林省長春市において出産後の女性が家族に期待する支援, 日本看護科学会誌, 30(1), 3-13.

【利益相反の開示】 本研究における利益相反は存在しない。

科研費: 研究課題番号19K24168

文化看護学会第12回学術集会 運営組織(五十音順)

〈企画委員〉

Elsi Dwi Hapsari (Faculty of Medicine, Public Health, and Nursing, Universitas Gadjah Mada)

石垣 和子 (石川県立看護大学看護学部)

井出 成美 (千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター)

上杉 裕子 (神戸大学大学院保健学研究科)

太田 浩子 (東京工科大学医療保健学部) (副事務局長)

北村 広美 (多文化共生センターひょうご)

西元 康世 (四天王寺大学看護学部)

平谷 優子 (大阪市立大学大学院看護学研究科)

法橋 尚宏 (神戸大学大学院保健学研究科) (会長)

細名 水生 (神戸大学大学院保健学研究科)

堀口 範奈 (神戸大学大学院保健学研究科) (事務局長)

正木 治恵 (千葉大学大学院看護学研究科)

〈監 事〉

Agrina (Faculty of Nursing, Universitas Riau)

清水 安子 (大阪大学大学院医学系研究科)

〈実行委員〉

市川 暢恵 (神戸大学大学院保健学研究科)

印 雯 (神戸大学大学院保健学研究科)

呉 憂 (神戸大学大学院保健学研究科)

田中 文 (神戸大学大学院保健学研究科)

陳 子言 (神戸大学大学院保健学研究科)

寧 珊 (神戸大学大学院保健学研究科)

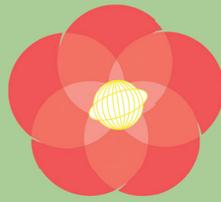
林 綺婷 (神戸大学大学院保健学研究科)

堀本 知春 (神戸大学大学院保健学研究科)

溝畑 智子 (神戸大学大学院保健学研究科)

蘭 若卉 (神戸大学大学院保健学研究科)

冷 佳月 (神戸大学大学院保健学研究科)



文化看護学会

定価：2,000円＋税
Price: ¥2,000 exclusive of tax

ISBN 978-4-904684-06-1
出版：株式会社セカンド